

## アレキサンドリア滞在記

(Egypt Japan University of Science and Technology)



随 筆

河 崎 善 一 郎\*

Twitter in Alexiandria

Key Words : Dessert, Security, One minute Traffic, Dust

## 1. はじめに

昨年9月18日よりエジプト・アレキサンドリアに赴任している。赴任の目的は、エジプト政府・高等教育省に我が国の外務省と文部科学省が協力して、「世界に冠たる科学・工学系の大学E-JUST(Egypt Japan University of Science and Technology)」を造り上げるといふ、希有壮大な事業のお手伝いである。はたして目論見通りに計画は進んでいるのか、E-JUST 創立後の進捗状況については、公式文書やホームページが詳しいので、それらを参考にして頂くことにして、本稿では「白書」には書けない裏話を披露させて頂くことにする。早い話、愚痴、軽口のたぐいと考えると頂ければ良いかも知れない。なんと言っても文化背景のまったく異なる国での新規事業、愚痴の一つ二つも言いたくなるうと言うもの、筆者のストレス「解消談」としばしお付き合い願いたい。

## 2. 砂漠の国?

いよいよ赴任の日が迫ってきた頃、エジプト・アレキサンドリアに赴任と申し上げると、「砂漠の国ですから暑いのでしょうかねえ?大変ですね。」といったねぎらいの言葉を、大阪大学の同僚や友人の方々から頂くことが多かった。だからその都度、「アレキサンドリアの緯度は、鹿児島県の種子島程度ですから、想像されるようにひどく暑い所ではありません

んよ。地中海に面していますので、雨は比較的少ないかもしれませんが、一応四季はあるようで、1月にはあられやみぞれといった天候もあるようです。」と応え、彼等の誤解を解くべく腐心したものである。

そもそもエジプトと言えば、砂漠を背景にしたピラミッドやスフィンクスといった構図が象徴的で、「エジプトすなわち砂漠、だから暑い!」と言った固定概念が、わが同朋の多くの方々を持たれてきたようである。実際アレキサンドリアから西南にはサハラ砂漠が広がっており、「エジプトすなわち砂漠」という理解もあながち誤りではないけれど、任地のアレキサンドリアは、少なくとも緑の豊富な街なのである。

余談ながらアレキサンドリアの街には、ここかしこに果物露天商が店を広げており、その種類の豊富なこと、赴任した頃にはバナナ、マンゴー、11月の声を聞く頃からはザクロそして、マンダリンオレンジと、わが国と同じ季節感が楽しめる。まさに果物天国エジプト・アレキサンドリアと言っても言い過ぎではなく、この点については私自身大いに驚いた次第で、認識不足であったことを、正直に申し上げておきたい。ただ、これも正直に申し上げるなら、E-JUST キャンパス予定地は写真1のごとくで、口の悪い友人など、「本当に大学が出来るのか?まるで原野商法やなあ!」とからかうほどだから、やはりここは砂漠の国なのかも知れない・・・。

## 3. コソ泥の国?

赴任の日が決まって友人に頂いた忠告に「エジプトはコソ泥の国だから・・・。」というのがあった。取り様によっては、コソ泥が多いとは言え、凶悪は稀なのだから身の危険はなかりうとも理解でき、生来の楽道家らしく、のほほんとアレキサンドリアにやって来た。



\* Zen KAWASAKI

1949年1月生

大阪大学工学部通信工学教室研究生修了  
現在、E-JUST 電気、電子、計算機科学  
工学学類長 アドバイザー兼大阪大学  
大学院工学研究科 教授 工学博士 大気  
電気学

TEL : 06-6879-7690

FAX : 06-6879-7690

E-mail : zen@comm.eng.osaka-u.ac.jp



写真1 友人が原野商法かとかからかいましたが、E-JUST 建設予定地をしめす看板です。右から3人目が、筆者。

さて、職場でのこと。

エジプト人同僚がエアコンのリモートコントローラーを書棚にしまいながら「ここにしまっておくので、エアコンを使いたいときは取出して、必ず元通りにしまっておいてくれ・・・。」といったのは、私がアレキサンドリアに赴任してきた直後の事であったろうか？私は妙な癖（習慣？）だなぁと思いながら、それでも「何故そんなところにしまっておくのだ？」と尋ねた。その問いに同僚は、「すぐにリモートコントローラーが無くなるのだ！誰かがどこかに持って行ってしまうので困るのだ。」と応えた。私はますます妙な事を言うわいと実感したけれど、その時は一応それで沙汰やみとなった。

以来、数ヶ月を経て、先日初めて同僚の言う意味が判った。

年末年始の休暇を良い事に、住宅の付近を散策した。毎日の勤務が、距離にして50～60km西南に位置するボルゲルアラブというアレキサンドリア郊外までの往復で、住居の付近の事は全く分かっていなかったからである。散策ついでにアレキサンドリアの街を東西に走る市電にも乗ってみた。そして市電の終点で付近を歩きまわってみたところ、エアコンやTVのリモートコントローラーに台所用のラップをかけて、1メートル四方の板に山のように積んで売

っている露天商を見かけたのである。早速写真を撮ろうとカメラを構えたら、さすがにその露店商から撮影を拒まれた。真をとカメラを構えたら、あまり思案を巡らせずとも、リモートコントローラーの無くなるわけが判ろうというもの、いやはやエジプトは面白い国(?)である。

#### 4. ちょっと待って?(One minute!)

当地アレキサンドリアの商店で、何か買い求めようとすると、よく返ってくるのが「One Minute!」という応えである。彼達の母国語が英語でないとはいえ、まさか本当に「1分待って欲しい!」と厳密な時間を言っているつもりはないだろう。とはいえせっかちな日本人としてはどうも気になって仕方がない。というのも、あまり気楽にOne minuteを連発するし、「One minuteっていうが実際どれくらい待てばいいのだ?」の問いかけに、毅然として「One minute or two minutes!」と応え返すので、こちらもついつい1～2分と理解してしまいがちなのである。

しかし、当然のことながら、待ち時間が1～2分で済んだことなど一度もない。ついつい信じる自分自身のお人よしさが嫌になることも有る程で、半世紀近く以前に流行った歌なら、「わかっちゃいるけ



写真2 街で見かけた究極のOne Minute!  
左側に00:01の文字が見え、建設中の飲食店開店までにもう少しを強調したいらしいですなあ・・・。

どやめられない！」といったところかもしれない。だから最近、One minuteの応えに、「それはエジプト時間のOne minuteだろう。」と混ぜ返すようにしている。ただ、彼らエジプト人の極めておおらかな国民性のゆえか、そういった私の皮肉にも微笑みを返してくる。ひょっとしたら私のいう英語が完全に通じていないからかも知れないけれど・・・。ただ、One minuteに加えフラストレーションのたまるのは、そうやって人を待たせておきながら、店員同志が平気で雑談したり、横から割り込んできた新しい客と言葉を交わしたりする点である。とはいえ悲しいことに、この国の有り様にすっかり慣れっこになってしまったのだろうか、こんなことでフラストレーションを貯めていては、この国では生きてはいけないと考えるようになってきている私自身である。そんな最近、街で見かけた看板が、写真2である。建設中のビルの一階部分に張り付けてあった究極のOne minuteである。悠久の5000年の歴史を誇るエジプトなら、半年や一年はわずかOne minute(1分)程度なのかもしれない・・・。

余談ながら、約束の時刻にも比較のおおらかな国民性で、午後1時の約束が平気で、2時になったり3時になったりすることもある。One minuteごときで右往左往するようでは、悠久の歴史を有するエジプト・アレキサンドリアに住む資格がないに違いない。

## 5. 道路事情

アレキサンドリアの街を初めて訪れたのはもう2年以上も前の事である。その時はここまで深くかわるようになるうとは想像もしていなかった。ただ一度訪れ、二度訪れするうちに、「この国で、人生最後の仕事をしてもいいかな・・・。」と考えるようになり、E-JUSTにのめり込んでいったというのが偽らざる所である。

ただ、そんな気持ちとは裏腹に、どうもなじめないのが交通事情である。いやもっと直接的に申し上げるならドライバーの皆様の運転マナーである。初めて訪れたとき出迎いの車で道路に出た時のあの驚きは未だに強烈であった。同行の友人から「この国は、車線数より多くの自動車が並走しますからね。」と聞かされていたけれど、その事実を実感できなかったというのが正直なところであった。ところが、である、空港の駐車場から一般道へ出たとたん、というよりも既に出ようとするその時から、私達の車はまさに決死の行動を強いられ、この国の運転マナーの悪さを実感させられることとなったのである。いや少なくとも私には「私達の運転手は、決死の思いに違いない！」と考えたのである。というのも道路上の各車がそれぞれ弱肉強食の勢いで、少しでも早く先に行こうと、クラクションを鳴らしながら疾走しているし、直進だけならまだしも右往左往しているのである。だから私達の車も、駐車場から簡単

に道路に出るわけにはゆかなかつたのである。それによくよく見れば、四車線の、道路を六・七台が並走し、少しでも空間ができると、必ず車が突っ込んで行くし、その車より先に行こうと別の車がクラクションを鳴らす有様ときは、いやはや四車線有る道路も魑魅魍魎の世界に近かつた。そして「よくこれで、交通事故が有りませんねえ！」と感心する私に、「当然事故は多いですよ。ただ道路自体が渋滞気味だから、まだ助かっているのかも・・・。」と空恐ろしい答えが返ってくる有様。あの時受けたあの衝撃こそ、まさに「カルチャーショック」と言うべきものだったのであろう。

そんな街に住んではや4ヶ月。信号も横断歩道もない七車線道路を、疾走してくる車を交わしながら横断している私である。いやはや慣れとは恐ろしい。

#### 6. ごみまみれ、ほこりまみれ

アレキサンドリアにいて一番閉口するのは、この国の方々に失礼な言い方ながら街の汚さである。いたるところにごみが散らかっているし、ちょっとした広場があろうものなら、間違いなくごみ置き場の様相を呈している。多分広場があると、ごみを捨てに来る不届き者が多いのだらう。それに街中に行く人々は、まるで競争するかの如くポイ捨てをしていらっしゃるときは、ごくごくごくまれに見る街中を清掃する人の働きも、焼け石に水といったところではなからうか。最近初めて乗った市電も、日頃お世話になっているタクシーも、床は当然シートでさえ何やらざらついている。砂嵐があつたりするので、自然とざらつくのだらうが、それは毎日でも掃いたり拭いたりすれば解消できる筈である。

その街の汚さに輪をかけているのが、アレキサンドリア街中の建設ラッシュ。いたる所で高層住宅や集合住宅が建設され、そのための廃材が、歩道はおろか車道を平気で侵食している。そんな光景を見るにつけ、「あんなに雑然とした建設現場で計画通りに工事が進むのか？」と不思議に思ったりもする。郷に入っては郷に従えとはいふけれど、お節な日

本人としては気になって仕方がない。いやもっと積極的になら、「整理整頓を心がけたら、もっと効率が上がるのに・・・。」と、考えたりもする。悪口を言いだしたついでにもう一つ。この国の諸事にわたる効率の悪さは天下一品である。この地の我が同朋の同僚など「河崎さん、この国では一日に一仕事と考えねば。二件も三件も考える方が間違いです。」とえらく達観した意見を仰る。とはいえまたまた節介ながら、この国の効率の悪さは、整理整頓を心掛けない国民性というか、習慣というか、に因っているに違いないと考えたい。あるときあのピラミッドを造った国民と同じとは思えないと、エジプト人友人に告げたら「ピラミッドを造った古代エジプト人は、イスラムの侵攻で、淘汰されたとは言えないまでも、本来のエジプト人と混じってしまったのだ・・・。」と、言い訳に近い答を返してきた。混じってしまったから、いい加減になってしまったと言いたかつたのだらうか？

悠久の歴史を誇る、エジプトの誇りが無くなり、埃だらけになったといえれば言い過ぎだらうか？

#### 7. おわりに

勝手な言い分をいろいろ並べさせては頂いたけれど、これだけではとても言いきれない。いやそれどころか、愚痴を吐き出すより新たに生まれてくる不満、フラストレーションの数の方が多いかも知れない。このように申し上げると、「そんなことならさっさと見切りをつけて、帰国したら。」「そんな思いで、どうしてその国で頑張るの？」といったお言葉を頂きそうだが、「愚痴を言うのは、それだけ思い入れがある証拠。」で、与えられた任務を何としてもやり遂げての気持ちは萎えそうにない。「世界に冠たる大学」になるには、たかが2年ではとても無理な相談だから、請われるなら2年はおろか、4年でも6年でもの気持ちが本当の所である。それもこれも真っ白なキャンパスに絵を描くがごとくの任務とあつては、まさに男冥利に尽きようというもの。